

私立 園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部

取組名称 **地域力を生かしたキャリア支援プログラムの構築**

取組担当者 **未来デザイン学部 教授・学生支援部長 大江 篤**

1. 本学の概要

園田学園女子大学の前身は1938(昭和13)年に設置された園田高等女学校である。地域の女子教育振興がその目的であった。1963(昭和38)年に園田学園女子短期大学、1966(昭和41)年に園田学園女子大学が創立された。

現在は、未来デザイン学部、人間健康学部、人間教育学部、短期大学部があり、4学部7学科8コースに計1,747名の学生が学んでいる。

本学では開学以来の使命として取り組んで来たのは「自らの進む道を自らの手で切り開く強さと、豊かな感性を身につけた女性」を、その時代に応じた形で社会に送りだしていくこと。常に軸に置いているのは、実践的な教育をベースとする「経験値教育。」である。それは、知識を積み上げるだけではなく、様々な経験を通して学生のなかに真の力を蓄える教育。知識の量を誇るのではなく、ずっと先まで個々を支える“知恵”を育む教育。そうした本学ならではの「経験値教育。」が、学生の自信を育む。

また早くから「地域に開かれた大学づくり」に着手。1987(昭和62)年には「学園環境みどりの町なみづくり」として兵庫県知事の表彰を受け、1988(昭和63)年には学園緑化とキャンパス開放に対して建設大臣表彰を受けた。いつでも出入りすることができるキャンパスとして現在も市民に親しまれている。

2. 本取組の概要

本学は、開学以来約40年にわたり、尼崎市において地域に開かれた大学として、地域貢献の実績を重ねてきた。その活動を通じて、「経験値教育。」という教育方法を構築し、社会人基礎力の養成をすすめてきた。しかしながら、厳しい雇用状況のなか、就業意欲は高いものの内定を得ることができない学生が少なくない。

その対応として、本取組では、コミュニケーション能力等学生の社会人基礎力の向上を図り、就職率のア

ップに繋げることを目的にした。学長を中心とした就職支援体制を強化するため、地域の尼崎商工会議所、尼崎経営者協会、ハローワーク尼崎と連携し(図1)、就職相談員の配置等を強化することによって、一人ひとりの学生に応じた支援を行う。

また連携先と共同で、地域力を生かした学科ごとのキャリア支援プログラムを開発し、一人でも多くの学生が希望業種に就職することを目指す。

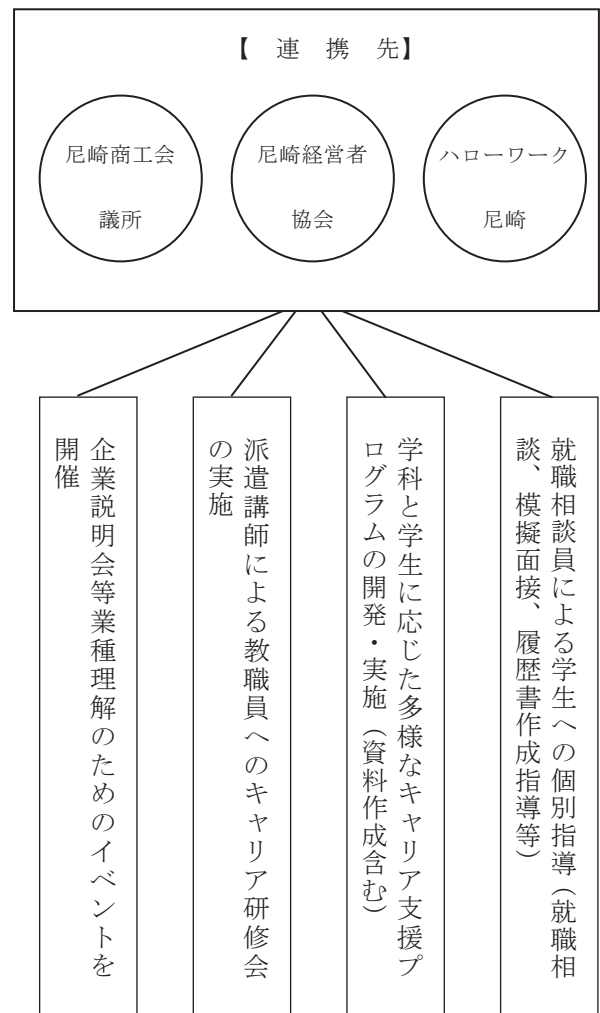


図1 就職支援体制

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨と目的

この取組は、学生の社会人基礎力と就職率向上のため、尼崎商工会議所、尼崎経営者協会、ハローワーク尼崎と大学が連携した就職支援体制の強化を目的とする。地域力を生かしたキャリア支援プログラムのなかで社会人基礎力の向上を図る。

同時に、連携先からの就職相談員の配置等を強化し、一人ひとりに応じた支援を行う。そのためのツールとして、面接フィードバック・システム（写真1）を導入し、実践的に就職活動を援助する。このシステムは視聴覚効果の高い面接指導システムで、模擬面接において学生が本番に近い状態で練習を繰り返し、自信を持って本番に臨めるよう、就職相談員がより充実した個人指導を行うものである。これらの取組を通じて、卒業年次生が一人でも多く希望業種に就職することを目的とする。



写真1 面接フィードバック・システム

(2) 達成目標

本取組の達成目標としては、就職希望者率（全学生比）と就職率（全希望者比）について、2009（平成21）年度目標はそれぞれ86%、70%とし、まず全国レベルに近づける。結果として、表1のとおり、全国平均を上回る実績を残した。

2010（平成22）年度は90%、75%以上を目標し、2011（平成23）年度以降は、2009（平成21）・2010（平成22）年度の2年間を評価したうえで新たに設定する。また、これらの目標を達成するために、本取組の具体的内容ごとに別途行動目標を定める。

表1 平成21年度実績（平成22年5月1日現在）

	卒業数	就職希望数	就職希望率	就職数	就職率
大学	331	276	83.4%	233	84.4%
短大	178	162	91.0%	128	79.0%
大短合計	509	438	86.1%	361	82.4%

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

地域力を活用した学科と学生に応じた多様なキャリア支援プログラムを企画し実施する。具体的な実施内容は、①学科と学生に応じた多様なキャリア支援プログラムの開発・実施、②視聴覚効果の高い面接トレーニングツールの導入、③より充実した学生への個別指導<就職相談、模擬面接、履歴書作成指導等>（写真2）、④全教職員へのキャリア研修会の実施、⑤企業説明会の開催等である。



写真2 就職相談員

(2) 取組の実施体制

本取組は、学長の指示の下、全学教職員が一体となって推進する。今回、大学として新たに地域の商工会議所等と連携する。学内の取組担当は学生支援部とし、キャリア支援課が中心になって実施内容及びスケジュール全般を調整し遂行する。教育課程との連関に当たっては教務課と各学科が、学生の個別指導においては学生課が推進する。

2010（平成22）年2月～3月に就職未内定者に対する就職支援として、就職指導員による個人面談や面接指導を実施した。その際、学生への周知のためDM発送を行った。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

就職相談連絡会（学生支援部と就職相談員で構成）からの月間報告に基づき、就職委員会（学科就職委員と学生支援部で構成）が毎月の点検・評価を行い、その評価結果を踏まえ改善策を策定し実施する。就職委員会は、学長主催の運営会議（学長と学部長・事務局部長等で構成）に実施結果を報告し、学長は就職委員会に対して、さらなる改善への助言を行う。

(2) 取組の評価方法

就職希望者率及び就職率の測定指標は、学生支援部が月単位で整理する就職状況調査の各数値（「学校基本調査」の報告値にて確定）とする。具体的内容ごとの指標には、開発したキャリア支援プログラムへの学生参加者数、学生個人別キャリアカルテ総合ポイントの全学平均値、キャリア研修会への教職員参加率、企業説明会への学生参加率を用いる。評価基準は就職委員会で定める。

2010(平成22)年3月に卒業した学生に対し、卒業生アンケートを8月に発送し、2010(平成22)年2月～3月に就職未内定者に対する就職支援を受けた者のアンケート結果を評価の参考とする。

6. 本取組の実施計画等

21年度目標に向け、2月中に就職相談員の配置、模擬面接専用室とトレーニングツールの設置を終え、卒業年次生への指導を強化する。並行して、連携機関とともに低年次生対象の学科に即したプログラムの開発に入る。4月からは22年度達成目標に向け、就職力を育成するため基礎からの個別指導を充実させ、キャリア研修会、企業説明会等を順次開催する。

また、就職相談連絡会や教職員研修会等を通じて得たキャリア支援のノウハウを生かして、就職力を育成するためのキャリアガイダンスを大学教育課程に明確に組み込み、23年度から実施に向けて検討する。自己点検・評価委員会による毎年の評価結果に基づき改善し、本取組を持続できるキャリア支援体制構築の契機とする。

